

知って、乗ろうよ！公共交通 モビリティ・マネジメント

モビリティ・マネジメントとは？

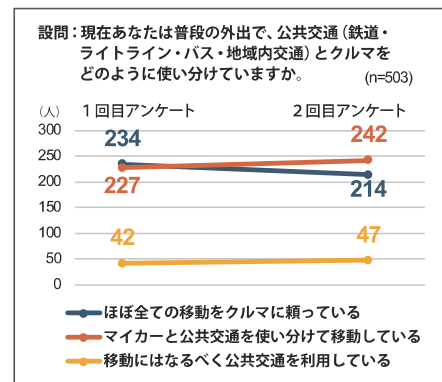
1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向へ（過度なクルマ利用から公共交通利用等へ）と変わることを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策のことです。今号で取り上げたようなサービスをわかりやすく知ってもらい、市民の皆さまの気持ちが「変わる」ことを目標にしています。

宇都宮市では、開業したライトライン

や新設したバス路線の沿線でMMを実施しており、これまでMMを働きかけてきたエリアでは、クルマと公共交通を使い分ける方が増えるなど、効果が上がっています。



沿線住民MMの結果が出ました！



に関する事前・事後アンケートを行ないました。

結果として、有効回答505名の方々のうち、約半数の方がマイカーと公共交通を使い分けているほか、MM働きかけの前後で、「ほぼすべての移動をマイカーに頼っている」方の割合が減少し、「マイカーと公共交通を使い分けている」方が増加したとの結果が出ました。

今年度は、平出・石井地区やJR岡本駅周辺にお住まいの方を対象に、ライトラインやバスを使った移動や暮らしを働きかけました。具体的には、より便利になった「乗ろうよ！ナビ」や、「宇都宮大学陽東キャンパス停留場」でライトラインからバスに便利に乗り継ぎできる時刻表などをご覧いただき、普段の移動や生活に公共交通を使えそうか、マイカーとほどよく使い分けができそうか

学生とのコラボで、MM進行中！

ライトラインの停留場「清陵高校前（作新大・作新短大前）」には、その名の通り停留場のすぐ近くに、宇都宮清陵高校と、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部が位置しています。そこで今年度は、作新大・作新短大の学生さんを対象としてMMが実施されています。

MMの働きかけ用ツールとして作成されたのは、ポケットサイズに折り畳

まれたライトライン沿線マップ。作新大・作新短大の学生さんたちと、市の担当職員、プロのデザイナー・コピーライターとの合作によるもので、開いていくとライトラインの紹介や時刻表・運賃表・路線図、沿線の魅力やオススメスポット紹介などが現れる、盛りだくさんの内容です。

この沿線マップは全学生に配布され、それによる学生さんの意識変化を探るアンケートが実施中です。



「乗れば愉快だ ライトライン沿線」表面



同沿線マップ裏面

編集後記

今回の「乗ろうよ！通信」第2号では、公共交通利用促進運動「MOVE NEXT UTSUNOMIYA」で実施している数多くの施策をご紹介させていただきました。担当編集としては、今までの発行物の中で断トツに分かりやすくまとまっていると思いますので、ぜひ読み返していただけると嬉しいです。

宇都宮にライトラインが走り始めて早くも1年半。公共交通をめぐる環境が大きく変化する中で、利用促進運動である「MOVE NEXT UTSUNOMIYA」も変化・進化していく必要があります。例えば、いまある複数の運賃制度（バスの上限運賃制度や乗継割引制度）を考えると、それぞれの適用条件の違いなどを超えて、「〇〇円で、市内の公共交通に1日乗り放題！」といった制度にアップデートする？などといったことが考えられるかもしれませんね。

来年も、交通事業者と連携したイベントなど、公共交通をより「便利に」「身近に」感じていただくための取組をどんどん企画していきたいと考えておりますので、どうぞお楽しみに！

スマホ1つで、ここまで便利に！ 「乗ろうよ！ナビ」の進化



「乗ろうよ！ナビ」
<https://u-kotsu.navitime.biz>



いっそうパワーアップした「乗ろうよ！ナビ」。もう、お使いいただけましたか？従来のライトラインや路線バスの経路検索機能に加えて、ドア・トゥ・ドアでの検索が可能に。例えば自宅住所から目的地までの入力で、最適な経路が表示されるようになったのです。

それだけでなく、おトクな「バスの上限運賃制度」や「各種の乗継割引」についても、検索結果と同時に金額を算出。クルマ移動と比較した場合のCO₂削減量やカロリー消費量まで、一目瞭然にしてくれるんです！

どう変わったか見てみよう！

宇都宮の公共交通いま・むかし

バリアフリー設計のライトラインに感激！



加藤さん

- 16歳 / 車いす利用
- 宇都宮東部エリア 郊外に居住
- 祖父母・両親・兄と同居

休みの日は、ライトラインやバスで街なかまで遊びに行きます。ライトラインは段差がないので車いすでも安心だし、バスも運転手さんが乗り降りを手伝ってくれるので移動に困らないんです。それに、ライトラインとバスを乗り継ぐと、運賃が割引になっておトクになるんですよ。

公共交通は、誰にとっても使いやすいことが大切。ですから、加藤さんのように車いすの方も不自由なく乗り降りできるように工夫されているんですね。

特にライトラインはバリアフリー設計にこだわっていて、停留場へのアプローチもスムーズ、車両自体も段差がない低床式車両であるほか、ICカードのリーダーもすぐに手が届く位置に置かれているんです。

本来950円の交通費が、なんと半額以下!?



鈴木さん

- 70歳
- 宇都宮北部エリアの郊外に居住
- 単身世帯

免許返納を見越して、毎年検診に行く病院にバスで行って見たんです。そしたら、上限運賃制度や乗継割引のおかげで、正規の料金の半額以下で行き帰りができて。これならクルマを手放しても、公共交通で暮らしていけそうだと実感できました。

日々、公共交通を利用するなら、「おトク感」も大事なポイント。例えば下記の移動の場合、正規料金の950円に対して実際は450円と、グッとおトクに移動できるようになったんです！

※「山王団地入口」バス停～「済生会病院」バス停間を移動する場合
山王団地入口→宇都宮駅西口：700円 400円（上限運賃制度の適用による）
宇都宮駅西口→済生会病院：250円 50円（バス・バス乗継割引の適用による）

以前は駐車場探しにウンザリしていたけれど…



手塚さん

- 40歳
- JR宇都宮駅西側エリアの街なかに住居
- 妻と、子ども3人と同居

今日は子どもたちと、ベルモールでショッピング。以前は狭い街なかでの運転や、駐車場探しに手を焼いていたけど、今はライトラインやバスを乗り継いで遊びにできます。乗り物大好きな子どもたちが楽しそうだし、私も運転に気を取られず、会話や車窓の景色を楽しんでいます。

公共交通の良いところの一つが、「運転しなくて済む」ことではないでしょうか。手塚さんは、慣れない街なかでの運転や駐車場探しから解放されて、車中でリラックスしながら、お子さんとの会話に花を咲かせられるようになりました。

お子さんも、そんなお父さんとの楽しい記憶を胸に、大きくなったらライトラインやバスを使ってお出かけするようになるのではないのでしょうか。



公共交通フェスタの様子